

報道関係者各位

平成 30 年 12 月 21 日

「金融所得課税一体化の範囲拡大」
賛同企業一同

～個人投資家向け税制に関するアンケート～

「金融所得課税一体化の範囲拡大」で個人投資家の動向は？

平成 30 年 8 月に金融庁、経済産業省および農林水産省が公表した平成 31 年度税制改正要望において、「金融所得課税一体化(金融商品に係る損益通算範囲の拡大)」として、「上場株式等」と「デリバティブ取引等(先物・オプション取引、FX、商品先物等)」との損益通算を認めることが挙げられました。

このたび本税制改正要望に賛成する合計 11 社の賛同企業は、本要望に関する個人投資家の皆さまの意識調査を行うべく「個人投資家向け税制に関するアンケート」を実施し、6,077 名より、回答をいただきました。

***** アンケート結果概要 *****

■ 個人投資家の 93.0%が、「上場株式等(国内上場株式、外国上場株式、公募株式投資信託等)」と「デリバティブ取引等(先物・オプション取引、FX、商品先物等)」との損益通算が認められることに「賛成」と回答

『「上場株式等(国内上場株式、外国上場株式、公募株式投資信託等)」と「デリバティブ取引等(先物・オプション取引、FX、商品先物等)」との損益通算が認められることについて、賛成しますか?』という質問に対して、93.0%が「賛成」と回答し、平成 30 年 8 月に金融庁、経済産業省および農林水産省が公表した平成 31 年度税制改正要望に挙げられた「金融所得課税一体化(金融商品に係る損益通算範囲の拡大)」について、圧倒的多数の個人投資家が支持する結果となりました。

■ 税制改正要望が実現した場合について、約半数が「これまで取引していなかった新たな投資商品に投資する」、「ヘッジ取引などの取引手法としての活用を検討する」など、家計の資産形成に有効利用すると回答

『今後の取引意向等についてお伺いします。質問(1)のように上場株式等とデリバティブ取引等の損益通算が可能となった場合、ご自身の投資行動に変化はあると思いませんか。』という質問に対して、「とくに変わらない」と回答したのは 39.1%でした。これに対し 60.0%は、「これまでより上場株式等やデリバティブの取引量を増やす」、「これまで投資していなかった新たな投資商品に投資する」、「ヘッジ取引などでの活用を検討する」と回答し、本税制改正が家計の資産形成の支援・促進に有効であることが分かりました。

また、現在取引している金融商品別に投資意向を見ると、信用取引やデリバティブ取引をしている人のニーズが高く、とくに先物・オプション取引をしている人では、52.5%が「これまでよりデリバティブの取引量を増やす」、49.4%が「ヘッジ取引などの取引手法としての活用を検討する」と回答しました。

〈アンケート調査概要〉

調査期間: 2018 年 10 月 1 日(月)～12 月 14 日(金)

調査対象: 個人投資家向けにアンケート調査を実施

回答者数: 6,077 名

調査方法: インターネットアンケート

調査地域: 全国

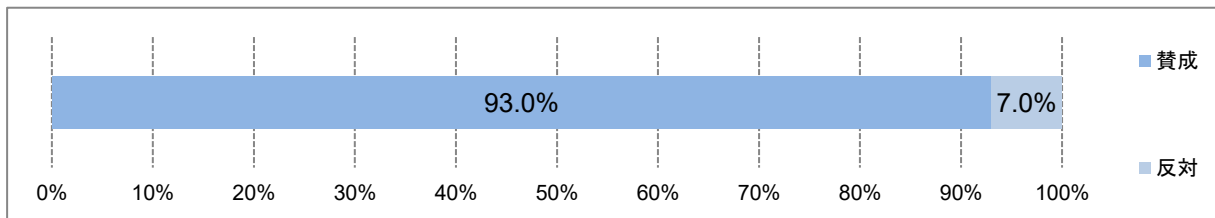
賛同企業一覧(合計 11 社)

- 岩井コスモ証券株式会社
- 株式会社 SBI 証券
- カブドットコム証券株式会社
- GMO クリック証券株式会社
- 株式会社スマートプラス
- 大和証券株式会社
- 東洋証券株式会社
- 内藤証券株式会社
- 松井証券株式会社
- マネックス証券株式会社
- 楽天証券株式会社

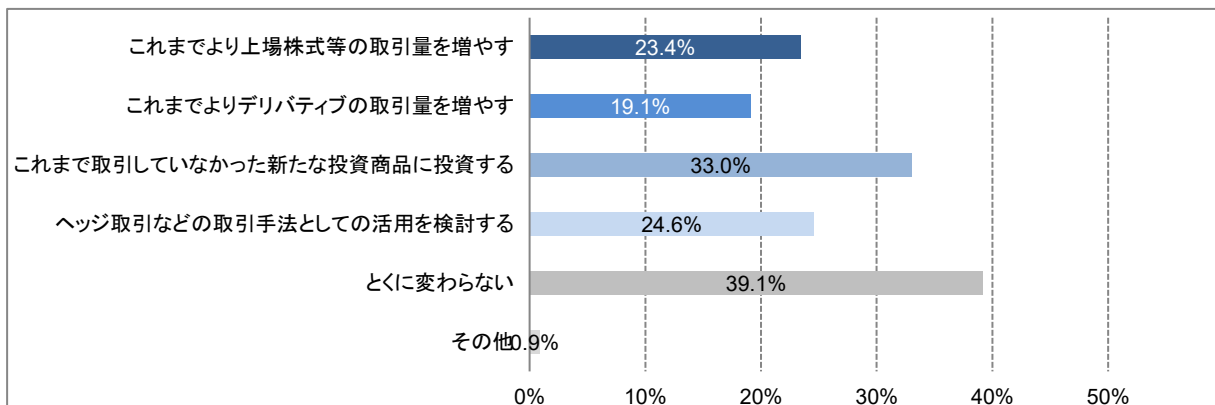
(五十音順)

***** アンケート結果詳細 *****

■質問(1):「上場株式等(国内上場株式、外国上場株式、公募株式投資信託等)」と「デリバティブ取引等(先物・オプション取引、FX、商品先物等)」との損益通算が認められることについて、賛成しますか？
(n=6,077)

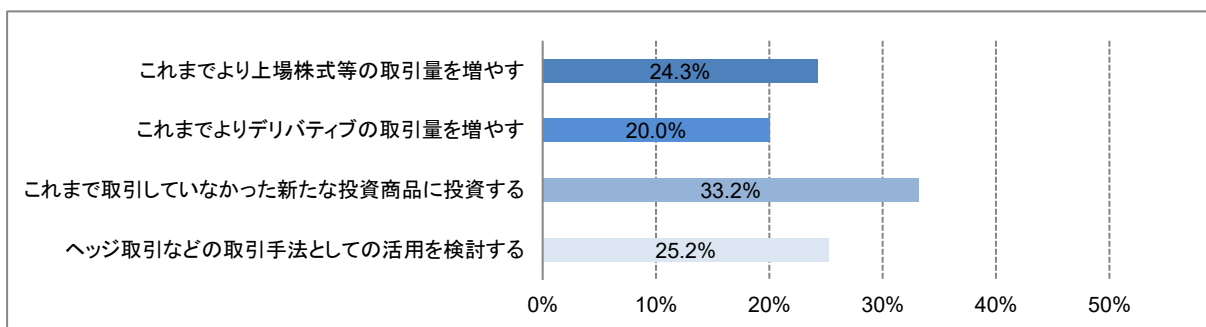


■質問(2): 今後の取引意向等についてお伺いします。質問(1)のように上場株式等とデリバティブ取引等の損益通算が可能となった場合、ご自身の投資行動に変化はあると思いますか。該当するものをご選択ください。(n=6,077)(複数回答)

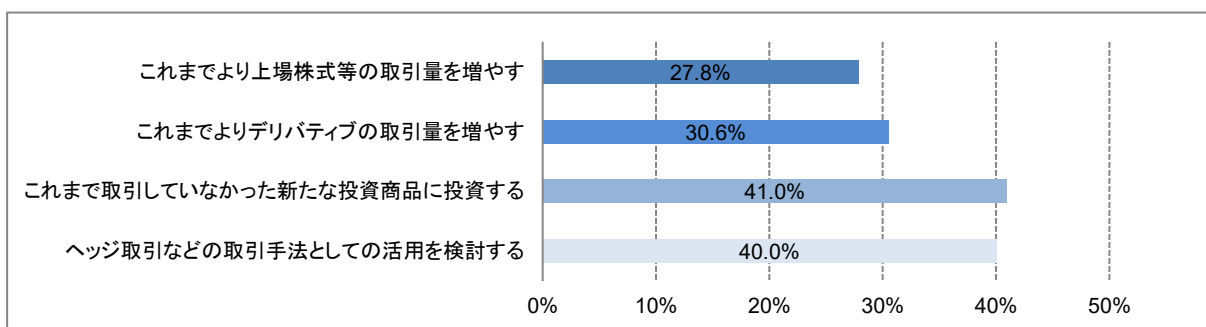


<現在取引している金融商品別の投資意向>

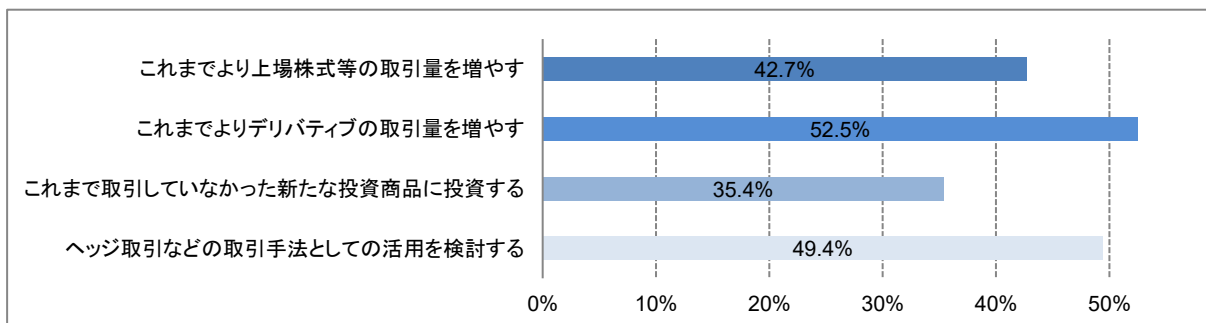
■ 国内株式-現物取引 (n=5,447) (複数回答)



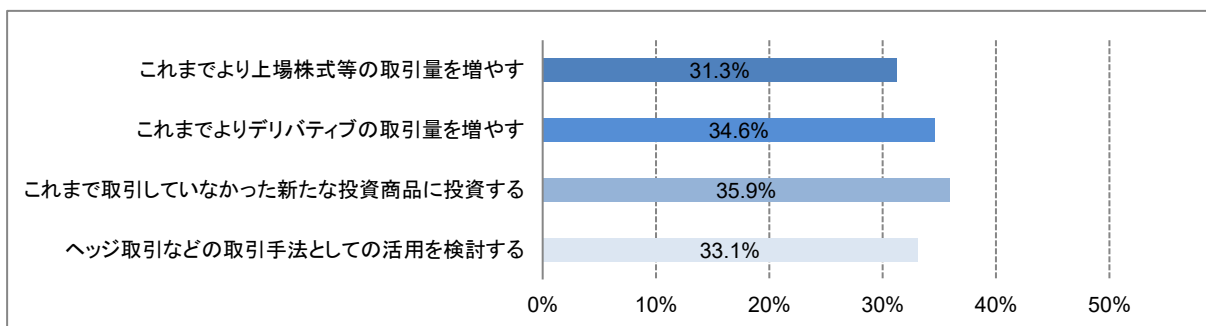
■ 国内株式-信用取引 (n=1,914) (複数回答)



■ 先物・オプション取引 (n=817) (複数回答)

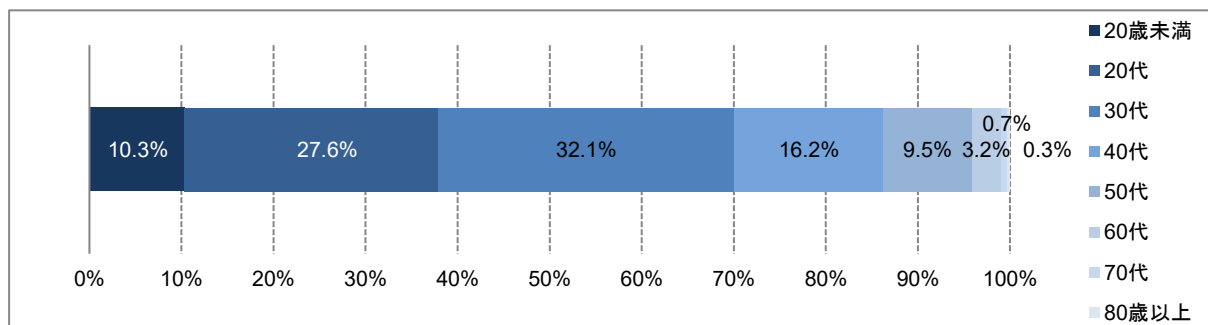


■ FX (n=1,776) (複数回答)

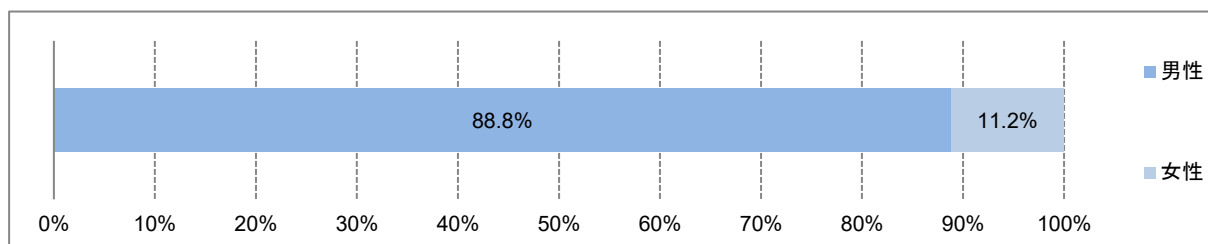


<属性情報>

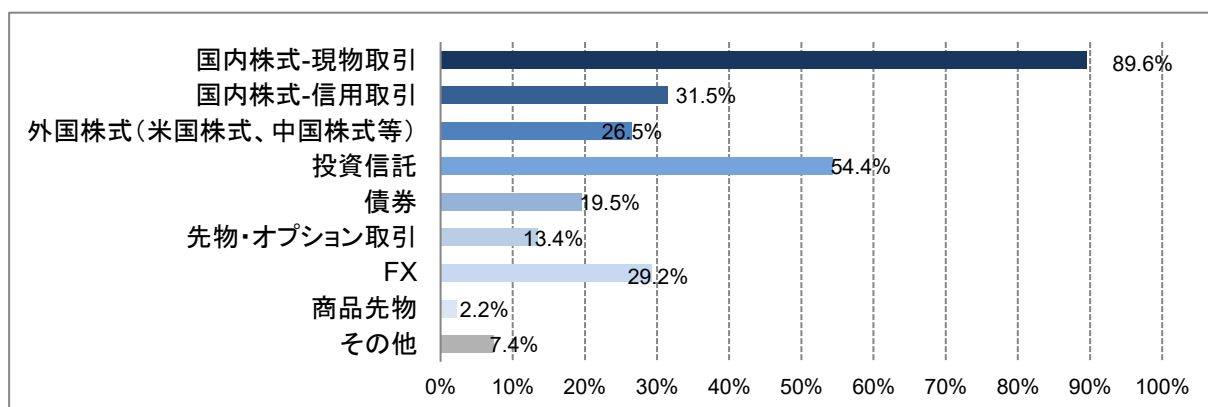
■年齢(n=6,077)



■性別(n=6,077)



■取引している金融商品(n=6,077) (複数回答)



【手数料等およびリスクの説明について】

楽天証券の取扱商品等にご投資いただく際には、各商品等に所定の手数料や諸経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。各商品等へのご投資にかかる手数料等およびリスクについては、楽天証券ホームページの「投資にかかる手数料等およびリスク」ページに記載されている内容や契約締結前交付書面等をよくお読みになり、内容について十分にご理解ください。

商号等：楽天証券株式会社（[楽天証券ホームページ](#)）

金融商品取引業者：関東財務局長（金商）第 195 号、商品先物取引業者

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会、一般社団法人日本投資顧問業協会